

院は地域の皆さんとのつながりも欠かせないものです。市民の皆さんの健康増進のための各種の講演会などは、現在の市民病院でも行われています。「市民から愛され・頼りにされる市民病院」を実現するためには、地域の皆さんとの交流をより大事にできる立地であることも必要ではないでしょうか。

スタッフの利便と環境

市民病院は市民のための病院として、そして、有明医療圏の2次医療を担う拠点病院として、24時間365日、医師をはじめ、看護師やたくさんの医療スタッフなどによって運営されています。スタッフの士気確保のためには、安心して勤務でき、職場環境の良い所が望ましいことは言うまでもありません。

さらに、勤務中のスタッフに過剰な負担をかけずとも良いという視点も必要ではないかと思いました。そう考えた時、買ひ物ができ、保育所や託児所をはじめとして、さまざまな施設が近くにある場所がふさわしいと考えます。

介護・福祉施設との連携

現在は、在宅福祉医療の流れが主流となり、かかりつけ病院や地域の拠点病院、介護施設やケアマネージャーなどの社会福祉・医療資源な

どが連携して、高齢者や障がいがある人なども、できるだけ住み慣れた地域で安心して暮らして行くことができるような地域包括ケアシステムの構築が求められています。市民病院はそれらの中核としての役割を地域で担うものです。現在までにかかりつけの診療機関や各福祉施設との連携を進め、ある程度のノウハウは蓄積されているところですが、現在の連携の継続と今後の発展に関して、できるだけ影響が少ない、既に関係施設が集積している地点を選択するべきではないかとの考えを持っています。

今後のまちづくりの視点

次は「まちづくり」の視点、特に「コンパクトシティ」の視点です。少子高齢化は時代の流れであり「新・荒尾市第5次総合計画」の中でも重要な視点の一つとなっているのが、今後の都市計画プランです。高齢化が進み、荒尾市の中にもコミュニティが希薄となり、限界集落に近い状況を呈している地域も出てきつつある昨今、地域に住む皆さんの買い物・福祉・レジャー・公共施設などへの移動や利用がさらに円滑に行くようなまちづくりを進めていくことは、全国的な流れとなつていきます。その視点から見れば、公共施設や市民生活に係る利便施設など各

るいは「別の付加価値を生み出しはしないか」そう言った視点も含めて、今回の市民病院建設予定地は決定しなければならぬと考えています。

市民目線、市民の意向

「市民の皆さんのご意見」を参考にさせていただきました。この問題に関して、喜ぶべきことに市民の皆さんの関心も非常に高く、それぞれの立場から署名活動がなされています。そういった市民の皆さんのご意見も重く受け止めています。

荒尾市体育協会から提出された「運動公園内に建設しないように求める要望書」1万3182人分、野外音楽堂に建設を求める会から提出された「野外音楽堂に建設を求める要望書」3004人分、荒尾を考える会から議長あてに提出された「競馬場を移転先として選択しないようにとの要望書」1660人分、そして、荒尾有志の会から提出された「競馬場跡地への移転ではなく市中央部に建設を求める要望書」1万3197人分。それぞれの思いがひしひしと伝わり、この問題に対する決断の重みを感じています。

関係機関の視点

「関係者のご意見」を参考にさせていただきました。三師会の皆さんからは、最終的に「場所はどこでも

種の社会資源を集積させていくことが、今後のまちづくりの方向に適うやり方であり、市民病院という、市民が必要とする、まちづくりの拠点となりえる施設を、既に各種の資源が集積しているところに建設することは、時代の流れだと考えます。

市民全体の健康増進の視点

健康は何物にも代えがたい宝物であり、市民病院は荒尾市民の命と健康と暮らしを守る最後の砦として、そして、有明医療圏でも2次医療を提供できる施設として、市民や圏域住民の皆さんの期待は大きいものと思っております。健康を主として「取り戻す」ものが病院施設の役割だとすれば、健康を「維持し」「病気にかけにくくする」役割を果たすもの大きな要素の一つがスポーツだと考えています。

「市民病院の建設地を市長と語る会」の席上、市民の皆さんからも「スポーツ施策も十分に考慮してほしい」との要望もありましたし、医師も「スポーツ施設は健康維持に効果的」との見解も示しています。「スポーツと医療との相乗効果」による「市民が皆、健康に暮らせるまち」として、荒尾市をよりよく変えていくためにも、スポーツと医療の連携が進めやすい場所を選択すべきではないかと考えました。

「安心・安全」と「利便性」、そして「地域とのつながり」こそは「病院の収益性」にも貢献してくれるものであると判断し、期待しています。

建設地の決定

今まで述べました12の視点を勘案し、また、昨年の市長選挙の結果などを踏まえ、熟慮の末、市民病院は「野外音楽堂周辺地域」に建設することが妥当と判断しました。

医療とスポーツの連携

私にとつて、非常に重い決断でしたが、まず、市民病院を利用する対象者の範囲を重視しました。運動公園は一義的にはスポーツを楽しむ人たちの施設です。それに対して、市民病院は全市民が対象になるものです。そう言いますと「運動公園は選手だけのものではなく、憩いの場としての意義も持っている」とお叱りを受けそうですが、ウォーキングロードを歩く人たちも、運動公園で遊ぶ子どもたちも、それが最終的にはご自身の健康増進に役立っていることを感じていると思います。

繰り返しになりますが、健康は何にもまして大切なものです。健康でなければ、せっかくの運動公園も利用できません。その意味で「スポーツの振興」は「市民の健康増進」と表裏一体の関係にあると言えます。

財政的な視点

「造成などのインフラ整備コスト、市費の持ち出し」に関する視点です。「病院の収益確保ができるのであれば、収益と投資を比較して有利な場所を選ぶべきである」という市民の皆さんからのご意見もありました。その意見には、私も同意するものであり、収益に見合わない投資を行わなければならない場所は、話にならないと感じています。その点から言うと、新たな用地買収や過度の財政支出を伴わない場所が適当ではないかと判断しています。

しかしながら「あるものを生かす」という視点から考えると、資本投下により、資産価値が高まり、周辺環境を向上させ、従来の課題解決に結びつくなど、投下する資本に見合う成果を期待できる場合であれば、財政とにらみ合わせながら、できる資本投下はすべきではないかと考えています。

将来の維持管理コストの視点

どのような施設でも、ランニングコストはかかりますし、時代と共に追加投資が必要な場合も出てきます。病院の収益の中で対応していればよいものですし、不採算部門を除き、独立採算できるような経営をすべきであるとも考えます。新病院は、市民の皆さんからも心配が多

かった塩害の問題などを勘案し、できる限り、ランニングコストがかからない、病院の経営を圧迫しない場所を選択すべきだと考えています。

あるものを生かす視点

「これまで生かされてこなかった土地を有効に活用していく視点」「あるものを生かす視点」「これから活用できる可能性がある土地はそれに任せるという視点」です。

土地には、その土地の性質に見合った活用の仕方があると感じています。それを具体化させるのがまちづくりですが、その基礎には「あるものを生かす」として「その土地に最もふさわしい使い方を考える」という理念がなければならぬのではないかと思います。それは単に「何に使うか」だけではなく、民活でできるところは民活で使うなど「どういうやり方で生かしていくか」の視点も必要だと考えます。

新たなまちを作り上げれば、理想的なものであるかもしれませんが。しかし、それには費用と時間がかかります。時間もどのくらいかかるかは現段階では未知数です。それよりも「今現在、配置されている施設などは本当にそれでいいのか」「将来的に何かと組み合わせれば、あるいは、資本投下すれば、施設の本来の価値がもっと上がりはしないか」あ

「スポーツの持つ健康増進への役割」の面を、もっと市政や病院経営に取り込み、運動公園をたくさんの人たちに楽しくご利用いただき、市民の皆さんの健康増進に役立てたいと思

いました。

先に申し上げましたように、市民病院の経営上でも「市民から愛される病院」という視点は大切なもので、講演会などを通しての交流は、今後とも大切であると考えています。しかし、そればかりでなく、スポーツ団体の人たちとのエクササイズ的な交流なども取り入れつつ、市民の皆さんに開かれた市民病院として、気軽に足を運んでもらえるような病院経営を行い、地域の行事などとも連携していくような市民病院として「荒尾市民の安心・安全のランドマーク」となる「市民の命と健康を守る砦」を、市・市議会・市民・関係者一丸となって早急につくり上げていきたいと考えています。

競馬場跡地の活用

対案の競馬場跡地の魅力は、広大な敷地と有明海を西に望み、南には渡り鳥たちの楽園であるラムサール条約登録湿地を抱くロケーションの良さです。さらに、JR荒尾駅に近接し、将来的には有明海沿岸道路が通り、インターもできるという交通アクセスの良さも競馬場跡地の素晴らしい

しい潜在能力だと感じています。しかし、市民からの強い意見で「世の流れからしても、海沿いの競馬場跡地には、他の施設ならまだしも、病院だけはつくらないでほしい」という痛切なご意見があったことを、忘れることができません。競馬場跡地は国の補助によって堤防のかさ上げ工事を進めています。今後、市民の皆さんが漠然と感じている心配を少しでも払拭できるように、市民の皆さんの安心・安全を守るため、一日も早い護岸改良工事の進捗を国に働きかけ、競馬場跡地の持つポテンシャルの高さを十二分に引き出し、生かすような使い方をせねばならないと思っています。

競馬場跡地は、荒尾市のスポーツ・観光・商業を振興し、荒尾市の交流人口の拡大を進める役割を果たすとともに、駅前地区の活性化に資する、市民の皆さんの憩いの場にもなるような整備を進めるよう、研究・検討して参ります。

おわりに

今後、庁内一丸となつて、市民の皆さんから愛され、頼りにされる「新しい市民病院」開院へと努力して参りますので、議員の皆さんの支援・協力・理解を賜りますよう、お願い申し上げます。私の意思表明とさせていただきます。